第122回日本眼科学会総会 モーニングセミナー

セルフォトメトリ

臨床現場での意義に迫る!

2018年4月20日(金) 7:45~8:45 第7会場(大阪国際会議場 12階 グラントック)



座長

日本大学名誉教授 / 公益財団法人一新会 理事長

眼科の日常臨床で細隙灯顕微鏡は病態生理の理解、評価に必須の装置であるが、最大の問題は 定量的評価が難しいことである。眼内には血液眼関門が存在し、この関門機能の低下は前房内 タンパク濃度(フレア)、細胞(セル)の変化を生じるためフレア、セルの非侵襲的定量的評価法として フレアセルフォトメータが開発され、臨床に導入され病態生理に関する多くの知見が報告されてきた (Jpn J Ophthalmol, 2017,61:21-42)。全ての検査法は病態を理解、把握するためのものであるので、 その原理に基づいて、精度、較正法、限界を理解し、適切に使用される必要があるが、しばしば装置 の測定結果が単純に使用されていることが少なくない。今回はフレアフォトメータの臨床現場での 適切な使用法、その測定結果の理解について3名の先生方に御講演をお願いした。



講演 1

緑内障診療におけるフレアフォトメータの活用

谷戸 正樹 先生

島根大学 眼科 教授



講演 2

黄斑浮腫にフレア値の測定は有用か?

野間 英孝 先生

東京医科大学八王子医療センター 眼科 准教授



講演3

らゆるぶどう膜炎診療で役立つフレア値

竹内 大柴

防衛医科大学校 眼科 教授

共催: 第122回日本眼科学会総会 Kowa 興 和 株 式 會 社

